

「共生」を大切によりよい関わり方を「つくる」ことを通して、

豊かなスポーツライフを実現する体育科の学習

I 体育科研究の方向性

1 主題設定の理由

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」で以下のように記されています。

豊かなスポーツライフの実現を重視し、スポーツとの多様な関わり方を楽しむことができるようにする観点から、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方を共有することができるよう、共生の視点を踏まえて指導内容を示すこととした。（下線は筆者）

現行学習指導要領に「共生」が「学びに向かう力，人間性等」に係る指導内容として新たに加えられました。このことは、多様性を認める共生社会の実現に向けて、学校教育全体でどのように取り組んでいくかを問うものであります。

体育科の学習における「共生」を以下のように押さえました。

他者と運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方を共有し、一人一人の能力を最大限に生かし、仲間と考えを伝え合って自己の考えを深めようとしたり、互いの取組を認めて仲間との良好な関係を築こうとしたりする互恵的な関係による学び合いのこと。

運動が得意な児童，又は運動が苦手な児童を中心に据えた課題解決学習では，児童の積極的な参加とはならず，豊かなスポーツライフを実現する児童は育ちません。

「共生」を大切にするとは，互いを尊重し，運動が得意な児童も苦手な児童もありのままの姿で運動に関わることに繋がります。児童同士が学びを進め，誰とでも，どのような状況でも多様な楽しみ方，関わり方を味わう「真の探究」が実現すると考えます。

以上のことから研究主題を「『共生』を大切によりよい関わり方を『つくる』ことを通して，豊かなスポーツライフを実現する体育科の学習」としました。「『共生』を大切によりよい関わり方を『つくる』」とは，一人一人の思いや願いを尊重し合い，既存の枠組みや考え方にとらわれることなく仲間と共によりよい関わり方を考え出したり，創り出したりする学習のことです。「豊かなスポーツライフを実現する」とは，一人一人の能力を最大限に生かして学び合い，互いの取組を認め，仲間との良好な関係を築くことです。

2 目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

体育科における「子供が創り出す『価値』」を以下のように押さえました。

①自ら問いをもって，探究することの価値	自己の思いや願いを基に，自他の能力に応じた課題を選択し，解決していくことを通して，どのような環境でも運動に親しむ。
②人と関わり，協働して探究することの価値	他者と協働し，最適解を創造することを通して，他者を価値ある存在として尊重し，仲間との良好な関係を築く。
③探究する中で得た内容知や方法知の価値	体育の見方・考え方を働かせ，課題を見付け，よりよい解決方法を選択し，他の問題解決の場面で生かす。

II 研究内容の具体

1 探究型の学びのイメージ

豊かなスポーツライフを実現する体育科の学習とするには、教材と学習過程が豊かに関連付く問題解決学習を繰り返すことが大切です。

具体的には、教材との出会いから、よりよい運動との関わり方を「つくる」問題解決の過程を通して、特性に応じた運動との関わり方を理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付け、自己の課題を見付け、その解決方法を考え、実行していくことです。

本校体育科では、易しい運動から「思いや願い」を醸成し、自ら問いを見いだし、問題解決の過程を経て、豊かなスポーツライフを実現する「探究型の学び」を以下のように押さえました。

○探究型の学習過程 《具体例》

第4学年「でこキャッチバレーボール」(E ゲーム イ ネット型ゲーム)

①思いや願い②問題発見

- ・易しい運動（ボール慣れの運動）※試しのゲームや導入教材を扱うこともある。
- ・メインゲームを知り、楽しさやつまずきを共有し、単元目標を児童が考える。

③課題発見④予想

- ・メインゲーム動画を視聴し、解決可能な運動課題を考える。
- ・解決方法を知る（練習集、見本動画の活用）。
- ・自分やチームの課題に応じて活動を決める。

みんなが(単元目標)
楽しく アタック
できる!

見本のゲーム動画
(文部科学省)

アタックピンゴ
練習集

白熱! ドキドキワクワク勝ち上がり戦!
Q.アタック(返球)がしやすいのは?
児童の考えを演ずる(イメージの共有)

チームタイム
アタックピンゴ
お試しゲームと相互評価
教師主導で行います

⑥修正⑦実行⑧振り返り

- ・うまくいったところをさらに伸ばしたり、うまくいかなかったところを修正したりする。
- ・課題を焦点化し、課題を意識して活動する(練習、ゲーム、作戦会議)。
- ・一連の学習活動を振り返る(思いや願い)。

⑤確かめる

- ・練習集から選んでチーム練習をする。
- ・試しのメインゲームを行う。
- ※グループ内での課題解決だけではなく、グループ間でも協働的に課題を解決する。

※学習過程は順序が入れ替わったり、一体化して同時に行われたりすることもあります。
必ずしも1単位時間あるいは単元にあてはまるものではありません。

○探究型の学びを支える教材設定の工夫

- ・系統性を踏まえ教材を設定する
- ・内容的視点、方法的視点から教材を加工、改変する

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

本校体育科では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を、次のように押さえました。

◆体育科における「個別最適な学び」

思いや願いを原動力として、自分の能力を最大限に発揮しながら、自分に合った課題や場を選択し、解決していく学び。

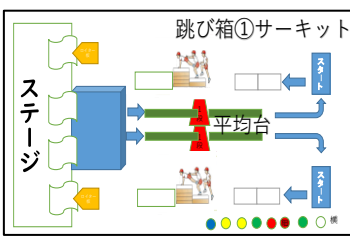
◆体育科における「協働的な学び」

一人一人が多様な運動との関わり方を楽しみ、自他の課題を協働して解決する中で、動いてみた感想や考え方を共有し、運動との関わり方を豊かにしていく学び。

《一人一人が主体的に運動と関わる学習の充実》

一人一人の能力を生かし学び合っていくには、主体的に運動に関わろうとする思いや願いが醸成され、自分に合った課題解決の場が保障されていることが重要です。一人一人が主体的に運動と関わる学習の充実について研究を進めました。

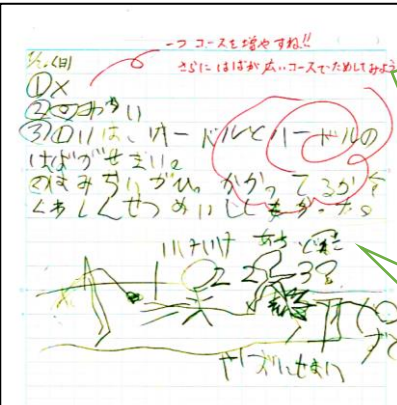
○「思いや願い」を醸成する教材との出会いの場の充実

慣れの運動	試しのゲームや導入教材
<p>[実践例：6年「跳び箱運動 サークット」]</p> <p>◎感覚を思い出す (既習, 学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕支持感覚 ・逆さ感覚 ・締め感覚 <p>◎既習と未習の接続 接して回る技(既習)</p>  <p>↓ 体を支えて回る技へ(単元のねらい)</p> <p>[実践例：4年「でこキャッチアタックバレー」]</p> <p>◎身体経験を積む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げ上げたり、頭より高い位置でアタックしたりする経験の確保 <p>※ボールへの安心感</p>	<p>[実践例：5年「フィールダー「ボール」」]</p> <p>【試しのゲームと工夫例】</p> <p>【初期ルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○攻撃、守備を1回ずつ行う ○打者はアウトになるまで進塁し、塁を一つ通過すると1点※残塁無し ○打者一巡で攻守交代 ○守備は走者よりも先回りしてボールを送るとアウトにできる※3人触球でアウト ○守備は走ってボールを運んではいけない <p>【導入教材の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール理解に偏りがあったり、技能差などにより主教材を扱うことが難しかったりする場合は導入教材を扱う ・導入教材「ハンドベースボール」 ・導入教材「並びっ子ベースボール」

○自分に合った場や教具の選択と修正

◎条件を選択できる場や教具の選択

- ・身体的特性、身体能力に応じて場や教具を選んだり変えたりできるようにする。



①ハードル間は適切か

②仲間の関わり

③①②の理由

◎児童に合わせて修正していく

- ・運動の様子や単元中の振り返り(場や用具は自分に合っているか)を基に場や教具を修正する

競走コース: 50mH, 6.5m, 6.0m, 12m, 5.5m

リズムコース: 〇〇〇〇

バランスコース: 〇〇〇〇

ジャンプ&ラン

《互恵的な関係による学び合い活動の充実》

一方向伝達的な教え合いでは、運動が得意な児童の考えが正解であると陥る児童が増えていきます。正解が一つではない最適解を協働して創造するためには、互恵的な関係による学び合いが重要です。多様な児童が多く他の者と学び合う学習活動について研究を進めました。

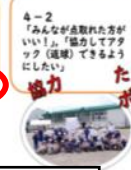
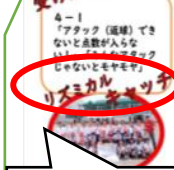
○互恵的な学び合いを支える単元目標の設定

- ◎学習グループ内で学び合えるように、単元で身に付けたい知識・技能を軸として設定します。
- ・技能だけではなく、態度面など多様な考えを「出し合う」
- ・特に大事にしたいことを「比べ合う」
※既習や経験の想起と思いや願いの共有
- ・単元目標を「決める」
- ・単元目標を常に意識して活動する

みんなが (単元目標)

楽しく アタック

できる!



※これまでに味わった運動の面白さの想起と共有を行う

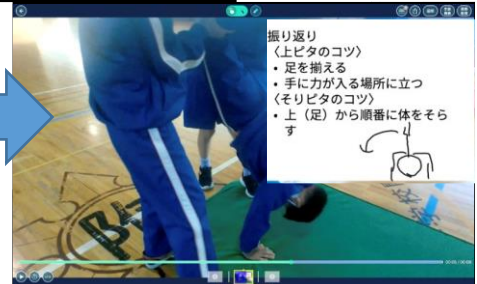
※思いや願いの醸成と共有を行う

○学習グループ間の学びをつなぐ共有場面の設定



グループの学びの共通点や差異点を基に全体で議論する。

グループ学習が停滞している場合は「学び方」の共有を行う場合もある。



3 子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

豊かなスポーツライフを実現するには、体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有し、次の学びに生かしていくことが大切です。

そこで、右のような視点を明示し、身体感覚を伴った「学び」の実感だけではなく、「学び方」の変容についても自覚できるような振り返りの工夫について研究を進めました。

これまでの学び	
新しい発見	「あっ分かった!」とか「あっそうか!」と思ったこと
感動の体験	深く心に残ることや感動すること
技能の伸び	今までできなかったこと (運動、練習を考える) ができるようになったこと
自主的学習	自分から進んで、学習したこと
課題をもった学習	自分やチームの課題に向かって、何回もしたこと
仲良く学習	友達と協力して、なかよく学習したこと
協働的学習	友達とお互いに教えたり、助けたりしたこと
楽しさの体験	楽しかったこと
精一杯の運動	精一杯、全力を尽くして運動したこと

これから	
仲間	友達とどのように関わっていきますか。
未来	これからどのように運動と関わっていきたいですか。

【探究する中で得た内容知や方法知の価値】(単元の振り返り)

自己評価◎

- ①今日はボールを持っている時、どうすれば良いか考えながらプレーをしました。ボールを持った時、自分がガードされていたらボールをキープすることが大事だと気付きました。また、ガードされていない人にパスすることで前回よりもボールがスムーズにまわり、点数にもつながりました。
- ②ナイス [] くん
プレー中、[] くんがボールを上手にキープしていました。相手にボールを取られる回数が減り、私達のチームがボール持っている時間が増えました。

バスケットは、上手い人(ドリブルが上手い人、背が高い人など)が独占してするものだと思っていました。だけど、バスケットはチームで協力してパスを繋いで点を取るものだと知りました。また、声掛けなどをすることでチームの仲が深まり、より楽しくなるということが知ることができました。チームで負けても明るく声を掛け合ったりすることで、みんなで楽しむことができたからです。

【①自ら問いをもって探究することの価値】(単元中の振り返り)

本時の「問い」について、自分の学びを振り返ります。

【②人とかかわり、協働して探究することの価値】(単元中の振り返り)

他者との「学び方」について振り返ります。

III 研究実践

4年生実践『ベースボール型 ズ・ドーン！ベースボール』

実践のテーマ：「共生」を大切に動きや規則を「つくる」ことで、
楽しむための心を「はぐくむ」体育学習

1 研究授業のねらい

本単元では、動くボールを遠くや狙った場所へ打ち返すことや、選択的な判断により効率的に進塁を防ぎ、得点を競い合う楽しさを誰もが味わうことをねらいとしました。

これまでのベースボール型ゲームでは、規則の難しさ、簡易化することによる守備判断や動くボールを打つ楽しさを味わう機会の減少が課題とされてきました。児童の実態や教材の系統性、ベースボール型ゲームの課題から右記のような教材を設定しました。

<p>3年生【折り返し集まりっ子ベースボール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1チーム5、6人 ○守備ラインの後ろに並ぶ ○折り返しベース 【攻め】 ○Tにセットされたボールをバットで打つ ○アウトになるまで折り返す ○ゴーンタッチ1つ1点 ○チーム全員が打ったら攻守交代 【守り】 ○アウトゾーンに運ぶ。全員がアウトゾーンの周りでしゃがみ「アウト」にする ※走って運んではいけない <p style="text-align: center;">3年生の「ベースボール型」 誰もがゲームの規則や 行い方を知る</p>	<p>4年生【ズ・ドーン！ベースボール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○守備は4人 1チーム5、6人 ○変則四角ベース（ホームと一塁の間に一点ゾーン） 【攻め】 ○味方の投げるボールを打つ ○アウトになるまで進む ○ゴーンタッチ1つ1点 ○チーム全員が打ったら攻守交代 【守り】 ○守備ラインは四角ベースの外側 ○どちらかのアウトゾーンに運ぶ。全員がアウトゾーンの周りでしゃがみ「アウト」にする ※走って運んではいけない <p style="text-align: center;">4年生の「ベースボール型」 規則を「つくる」 作戦を「つくる」</p>
--	---

2 単元の指導計画（7時間扱い）

時	段階	学習内容・学習活動	評価の重点【評価方法】	多様な関わり方
① (本時)	問題 発見	◇単元の見通しをもつ ○ボールに慣れる	態⑥【観察】	【知る】用具の準備の仕方を確認している。 【知る】バウン・ドーン！ベースボールの行い方が分かっている。
		みんなが動くボールを打ったり捕ったりしてゲームを楽しむには？ ○振り返り	知①【観察、ノート】	
② ③ ④	課題 発見 予想 確かめる 修正	◇みんなで規則を「つくる」 ○運動課題と課題解決の仕方を知る ○自他の特徴から練習を決める	態③【観察・ノート】	【知る】練習の仕方や正しいフォームについて分かっている。 【支える】応援、ゲームの審判をして支える。 【つくる】ゲームをした感想から、誰もが楽しめる場や規則を考えている。
		みんなが思いっきりズ・ドーンするには？ ○チーム練習 ○ズ・ドーンゲーム ○規則の変更案の交流 ○ズ・ドーンゲーム ○アダプテーションによる規則修正 ○振り返り	思②【観察、ノート】 思①【観察・ノート】 知②【観察】 態③【観察・ノート】	
		◇簡単な作戦を選び、新しい規則のゲームを楽しむ。	態①【観察】 思③【観察、ノート】	
⑤ ⑥ ⑦	実行 振り返り	相手の得点を最小にするには？ ○ズ・ドーンゲーム（NEW規則） ○チームタイム ◇大会を行う ○ズ・ドーン！ベースボール大会	態⑤【観察・ノート】 知④【観察】 態④【観察】 知②【観察・ICT】	【みる】ボールの正面に入る動きや声を掛け合う連携などのよいプレイを見付ける。 【みる】チームの作戦が自分やチームの特徴に合っているか観察してアドバイスする。 【支える】大会を運営したり、審判をしたりする。
		打ったり捕ったりして、みんなで楽しむことができた。 ○振り返り	知③【観察・ICT】	

3 本時の学習

(1) 本時の目標

周囲を見て場や用具の安全を確かめながら慣れの運動やゲームをし、ズ・ドーン！ベースボールの行い方の特徴や自他が感じる楽しさやつまずきを理解し合い、単元目標を設定することができる。

(2) 本時の展開(7時間扱いの1時間目)

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
※場や用具の準備はしておく 1 グループ対抗スキップぶつけ鬼 2 本時のねらいの確認	※「3, 4年生のゲーム規則比較表」「チーム表」「場の設定」を掲示しておく ・筋肉を温めることを目的とする。大きく動かすように指導する。
ズ・ドーンベースボールのルールを知り、単元の見通しをもとう！	
3 場や用具の確認をする ・場や用具の準備や片付けを「知る」 4 単元の見通しをもつ ・学習の進め方の確認 ・初期規則を「知る」 ・ゲームの行い方を「知る」 ・3年生のゲームとの違いからどのような技能が必要になるか見通す 5 ゲームにつながる運動を行う ・ズ・ドーン(手打ち) ※1人1球 ・真上投げ上げキャッチ ※1人1球 ・キャッチボール(ワンバウンド, ゴロ, ノーバン) ※2人1球 6 試しのゲームをする ・ゲームの行い方を確認する ・対戦相手を確認する ・試しについては時間制(3分交代) ・打順については番号順 7 単元目標を設定する ・球が遠くに飛ぶと嬉しい ・何点入るかドキドキした ・動く球を打つのは難しい 8 次時への見通し ・全体で勝因, 敗因を出し合う ・全体で交流する ・接戦になるような規則の工夫について考えがある人は発表する。 ※個人振り返りについては次時に時間を設定する。	・アウトゾーンが走るコート上にならないように指導する。 ・単元の時数, 本時の活動, 昨年の学びを発展させることを確認する。 ・運動が苦手な児童への配慮(大きなボール, 口伴奏, 肘の使い方の指導) ・場や用具の安全に気を配っている児童の姿を称賛する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【ウ 主体的に学習に取り組む態度】 周囲を見て場や用具の安全を確かめている。 (観察) </div> ・ゲーム規則が難しいと感じる児童のために試合をするコートにも初期規則を掲示しておく。 ◇互恵的な学び合いを支える単元目標の設定 <div style="background-color: black; color: white; padding: 2px 5px; display: inline-block;">研究視点2</div> ・動感の全体共有 ・動感を基に単元目標を考える ◇子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫 <div style="background-color: black; color: white; padding: 2px 5px; display: inline-block;">研究視点3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【ア 知識・技能】 ズ・ドーン！ベースボールの行い方の特徴を言ったり書いたりすることができる。 (観察, ※次時の学習カード) </div>
◇授業の見所・本時で願っている児童の姿 慣れの運動や試しのゲームに主体的に参加し、みんなの楽しさやつまずきから単元目標を考え、思いや願いを膨らまし、単元の見通しをもっている姿。	

4 授業の実践

互恵的な関係による学び合い活動の充実

互恵的な関係による多様な他者と協働して最適解を創造する学び合い活動の充実が、あらゆる他者を価値ある存在と認め、運動を通じて良好な人間関係を築くことのできる児童の育成に寄与します。

そのためには、チーム内での学び合いだけでなく、チーム間での互恵的、補完的な学び合いが生まれるように手立てを講じる必要があります。単元前半では、右記の2点の手立てを重視しました。

単元目標を学級全体で設定する営みが、他者の楽しさやつまづきを理解することにつながります。また、自他の楽しさやつまづきを共有することは、その後の互恵的な学び合いを円滑にします。

そこで本時では、単元目標を児童が考える時間を設定しました。ゲームをしてみて楽しかったところやつまづきを交流したり、3年生での学びを想起したりしました。A児は「仲間が打者に投げる球が大切です。打者に合った球を投げられると、遠くに飛ばすことができるからです。」と発言し、学級全体が納得している様子がありました。

単元2時間目は、単元目標を意識してチーム練習をし、ゲームを行いました。ゲーム後のB児の振り返りカードに、「みんなが打ちやすいようにボールを少し打つ人より右側に投げた」と書いてありました。単元目標を意識したり、A児の発言を生かしたりして練習やゲームを行っていたことが伺えます。

誰もがゲームを楽しむことができるように規則を柔軟に変えていく事は大切です。しかし、全体の規則を変更することで、新たなつまづきを生むことも考えられます。

そこで、単元前半では、そのゲームだけに適用する規則（アダプテーションルール）を用いることにしました。そうすることで、児童が発想した規則の改善案を試しながら全員の思いに沿った規則を決めることができると考えました。B児を始め、多くの児童が振り返りで、走る距離を変える案を出していました。また、守備でも点数が入る規則変更案を挙げる児童が多くいました。そこで、右記のように規則変更案を3つに絞り、対戦相手同士でアダプテーションルールを選びながらゲームを行いました。

単元4時間目の全員で規則を考える場面では、これまで試したことを基に、話し合いが行われみんなが納得のいく規則変更となりました。規則の変更が作戦を考えたり、グループ間で協力して課題を解決したりする必然性を生み、単元後半での学び合いにつながりました。

2つの手立てにより、互恵的な学び合いが充実し、動くボールを打ち返したり、選択的な判断により効果的に進塁を防いだりする楽しさを誰もが味わうことができました。このような学び合いを繰り返していくことで、あらゆる他者を価値ある存在と認め、運動を通じて良好な人間関係を築くことにつながります。

- ①単元目標の設定
- ②学習グループ間をつなぐ共有場面の設定（規則の修正）



【児童が設定した単元目標】

アダプテーション振り返り
(1(赤))グループ

①今日の結果 勝ち 負け
→勝ち 13-6

②今日の勝因、敗因
→自分達がバットを振る時みんなが打ちやすいようにボールを少し打つ人より右側に投げた。
そうすることで打ちやすく遠くに飛んだ。だから足が遅い人でも、点数を取れた。投げる人もうまかった。でも少し上手くいく時間がかかってしまったことがあるからそこは次回から練習していきたい。

③こんなルールだったら
もっと接戦になったかも！
遠くに飛ぶ人は相手チームが不利になるから走る距離を上げたら良いと思う

【B児の振り返り】

その場かぎりルール（アダプテーションルール）

自分の走る距離を短く

相手の走る距離を長く

3人触球ボーナス1点

【アダプテーションルール】

子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫（単元の振り返り）

身体感覚を伴った「学び」の実感に加え、「学び方」の変容についての自覚が、自分に合った運動との関わり方を見いだすことにつながると考えました。そこで、単元終末に振り返りの視点（※紀要P.79）を基に、「これまでの学び」を振り返り、これからの運動との関わり方について見通す時間を設定しました。

C児は、「協働的学習」を選択し、同じチームの仲間が、新たな練習方法やコツを自チームだけではなく、学級全体に共有し、全員が楽しめるように行動した価値について気付くことができました。また、他のチームの仲間が発想した練習方法をチーム練習に取り入れ、学びを深くした緑チームの価値にも言及しています。

D児は、「新しい発見」という視点を選択し、体育という教科の本質的な価値についても認識しています。振り返りの視点を児童が選択することにより、自分なりに深く学んだことについて振り返ることができ、これからの自分と運動との関わり方を見いだすことができました。

一方、E児のように他者との関わりから学んだことや学び方を振り返ることに難しさを感じている児童もいました。そのような児童の手立てについては、今後検討していく必要があります。

振り返り

今回の、ズ・ドーンベースボールはあまり野球をしたことがなかったから、初めはうまくできなくて、難しかったけど、 くんが練習を教えたりみんなにも教えて凄さを共有していたのですごいなと思いました。その練習を聞いて鍛える緑チームもすごいと思いました。たくさん強いチームがありましたが、緑チームは守備がうまくかったです。チームワークもよくとても強かったです。私のチームもだんだん初めと違ってできるようになっていって、とても楽しくなりました。だんだんクラスみんなもうまくなっていきました。私は、球を投げるのが苦手だったけど、できるようになっていきました。経験している人が、バットの振り方を教えてくれたり、チームワークが良くなったりしたので、たくさん点を取ることができるようになって楽しかったです。今回の大会では決勝で負けてしまって悔しかったけど、その代わり、チームワークや野球の楽しさを知ることができて、とても自分にとってよい学びができたと思いました。五年生でも同じようなことはしないかもしれないけど、これからは同じように、チームで協力していきたいです。作戦を考えると、今回の学習のことを思い出して、教え合ったり、共有したり、チームワークを深めながら、だんだん強くなっていけるようにしたいです。

【C児（白チーム）の単元の振り返り】

【振り返り】

大会で白チームと戦ったとき、赤チームの、六人中四人がホームラン打ったので、雰囲気盛り上がりしました。「すごい！」や、「負けそうかも…」という声が聞こえてきて、白熱した接戦の試合になりました。白チームは、みんなが諦めずまずい状況になっても「大丈夫！」と、お互いを励ます合うような声が聞こえてきました。体育は、運動神経が高まるだけでなく、友達との友情関係が深まる科目だと、改めて感じました。これから、もっと体育で友情関係を深めながら、楽しみたいです。

【D児（赤チーム）の単元の振り返り】

（振り返り）

僕は自分が球を打つとき、友達がいいところに球を投げてくれたからたくさん点数を取れた。これまでは狙ったところに飛ばせなかったけど、今は、狙ったところに飛ばせるようになった。守備もうまくなり、点数をおさえることができた。これからも野球などをするときには、狙ったところに、打ったり投げたりできるようになりたいです。

【E児（赤チーム）の単元の振り返り】

IV 1 年次研究の成果と課題

1 研究の成果

- 実態を基にした教材設定や出会いの場の工夫により、児童一人一人の思いや願いを醸成することができました。
- 単元目標を学級全体で設定する営みが、他者の楽しさやつまずきの理解につながり、互恵的な関係による学び合い活動を充実させることができました。
- 振り返りの視点を基に、単元中や単元末に「学び」や「学び方」について振り返ることで、自分の変容に気付き、これからの運動との関わり方を見いだすことにつながりました。

2 今後の課題

- 学習グループ同士の学びをつなぐ共有活動をどの場面に設定し、どのように行うのかについては、研究を進めていく必要があります。
- 他者との関わりで、「学び」や「学び方」の変容を自覚することが難しい児童への手立てについて明らかにする必要があります。

V 引用・参考文献

- 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年6月
- 初等教育資料 No. 1001「体育科における『学びに向かう力、人間性等』の指導と評価の充実」 東洋館出版社 令和2年12月
- ボール運動の教材を創る～ゲームの魅力をクローズアップする授業づくりの探究 岩田靖 大修館書店 平成28年3月
- 「学び合い」で上達する体育の授業 西川純 東洋館出版社 平成31年4月
- 真正の「共生」体育をつくる 梅澤秋久・苫野一徳 大修館書店 令和2年3月